



図191 遺跡の位置
5万分1地形図「新潟」

正尺遺跡 しょうじく 北区葛塚・かぶとやま二丁目・鳥屋

正尺遺跡は葛塚字正尺（通称曾根畑）一带に広がる遺跡群である。自然堤防上に立地する遺跡群で、四地点（A～D遺跡）が知られている。正尺A遺跡とB遺跡の発見は古く、昭和四十八（一九七三）年ごろである。正尺C遺跡は平成九（一九九七）年に高速道路建設に先立つ試掘調査で新たに発見された。正尺D遺跡は平成十年に周知化された。この四地点いずれからも古墳時代（主に前期）の土器が出土しており、古墳時代にはこの地域が重要な地域であったと考えられる。このことは、高速道路建設に伴い平成十一年と十二年に新潟県教育委員会が実施した、正尺A遺跡とC遺跡の発掘調査の成果から裏付けられた。

正尺A遺跡の発掘区三八〇〇平方メートルからはたてあな 竪穴住居跡一棟、どころ 土坑一基が発見された。遺物は土器を中心に出土しており、畿内や北陸地方、東海地方の影響を受けた土器も出土している。正尺C遺跡の平成十二年発掘区九二〇〇平方メートルからは、ほったてばしら 竪穴住居跡四棟、掘立柱建物跡九棟、周溝状遺構二基、土坑五二基、柱穴四一一基、溝二四条などが見つかった。

注目されることは、直径二二メートルにも及ぶ環状に巡る溝に囲まれるようにして、掘立柱建物一棟が建てられていたことである（口絵）。周囲を巡る溝は、幅が一～四メートル、深さ



図192 古墳時代前期の土師器 正尺遺跡 左端とその
右手前が装飾器台 新潟県教育委員会所蔵

二〇〜四〇センチメートルほどで、途中の三か所に入り口になる所（陸橋）があった。溝の形は、内部の掘立柱建物の方向と合わせるように四角形を意識しているようだが、いびつである。この溝に囲まれた建物は、集落の中心的な建物の可能性が高い。近年、古墳時代前期の集落遺跡の調査事例は増えつつあるが、類例がほとんどなく、貴重な発見となった。

遺物は土器を中心に多く出土している。壺・甕・甌・埴・碗・器台・高坏など、いろいろな種類の土器がある。北陸地方との関係が強いものが主体であるが、中には東海地方や東北地方との関連が考えられるものもある。とくに器台が多いことが特徴的であり、中でも装飾の施された器台が多数出土していることが注目される。赤く塗られた壺や、高坏・器台・埴は、祭祀の時に使われた土器と考えられている。その中でも装飾器台は珍しく、正尺遺跡のように多量に出土する遺跡は新潟市域ではほとんどなく、西蒲区の御井戸B遺跡がある程度である。正尺遺跡で見つかった溝に囲まれた一画は、何らかの祭祀が行われる特別な空間だったと考えられている。